

授業科目

臨床化学実習I

担当教員名 久保野 勝男	対象学年	2	対象学科	臨床
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	○	◎

授業の概要

病気の指標となる血清中の成分を定量する技術を習得する。具体的には、定量に必要な器具器材を学び、それら装置の操作法や分析方法を理解し、臨床化学分析における基本操作、定量方法、結果の解釈などの技術を学ぶ。

授業の目的

- 1 臨床検査の対象となる血清成分を理解する。
- 2 血清成分の測定法の原理を理解する。
- 3 分析機器を用いて血清成分の定量技術を習得する。
- 4 検査結果の臨床的意義を理解する。

学習目標

- 1 血清の取り扱い方法について熟練できる。
- 2 実験器具、器材の取り扱い方法について熟練できる。
- 3 検査項目の分析方法を説明できる。
- 4 検査値の臨床的意義を説明できる。
- 5 データの正確性、精密性について説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1、2	検査の基礎技術、検体処理、採血	講義・実習	
3、4	血清ナトリウム、カリウム、クロールの測定	講義・実習	
5、6	カルシウムの測定	講義・実習	
7、8	無機リンの測定	講義・実習	
9、10	血糖の測定	講義・実習	
11、12	採血、グリコヘモグロビンの測定	講義・実習	
13、14	HDL-コレステロールの測定	講義・実習	
15、16	トリグリセリドの測定	講義・実習	
17、18	クレアチニンの測定	講義・実習	
19、20	血清蛋白電気泳動	講義・実習	
21、22	尿素窒素の測定	講義・実習	
23	アルブミン、A/G比の測定	講義・実習	

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	臨床化学検査学	浦山 修、奥村 伸生、戸塚 実 他	医歯薬出版株式会社	2016年	5,600円+税	
参考書	異常値の出るメカニズム	河合 忠	医学書院	2013年	6,000円+税	
	臨床化学検査学 実習書	大西 英文、狩野 元成	医歯薬出版株式会社	2015年	3,000円+税	
その他の資料						

評価方法

血清成分の測定法の原理についての理解度や機器を用いた定量に関する手技を、レポート（70%）、実技試験（10%）および期末試験(20%)で評価する。

履修上の留意点

疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。

オフィスアワー・連絡先

木曜日3限・4限 F110号室 kubono@nuhw.ac.jp